

山形新幹線が止まる豪雪。苛酷な環境の中、新テレインでレースコンディションを作り出してくれた運営陣。それだけ今年のスキーO世界選手権選考会にはかけるものがあつた。

2005 スキーオリエンテーリング J-cup
2005年1月15日(土)-16日(日)
山形県 県民の森 (山形市)



ショート優勝！三浦の滑り

県(外)民の森

夏には恒例の「さくらんぼ大会」が行われるテレインも、冬になればその表情が一気に変わる。たくさんあつた沼は凍りつき、氷に穴を開ける釣り人の姿が見える。きれいに圧雪された、歩くスキーコース。スピードを出して快適なスケータリング滑走でタイムを縮めてゆく。コントロール周辺の丘陵では特設のモービルトラックを苦勞しながら攻めてゆく。

山形県民の森だが、県民はどちらかという運営に回り、選手の殆どは山形県民外である。

J-cup 初日のショート競技。1年ぶり

のスキーOの感触を楽しんでいる私とは別に、Eクラスでは今年のスキーO世界選手権出場をかけ、競いあつている。

混沌の男子選考会

今回のJ-cup男子は誰が1位になるか予想ができなかつた。というのも有力選手がほとんど出場していなかつたためである。

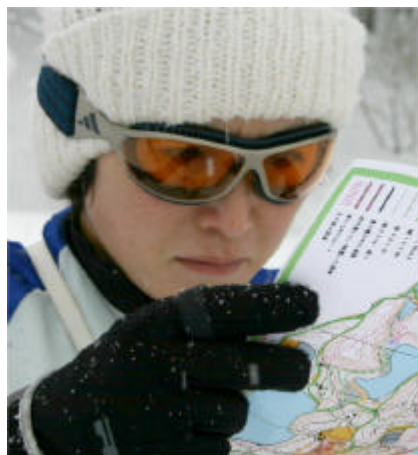
現在、日本トップレベルのスキー技術を持つ高橋尚博はフィンランドに在住。伸張著しい堀江はスウェーデン留学中。昨年のJ-cup優勝者の元木悟は本大会のコントローラ。昨年まで圧倒的な力を見せたグスタフソンは日本勤務が解け、もういない。長年スキーOを引っ張つた丸山哲史も第一線から引退を宣言している。

日本最初の世界選手権参加者だった関は新潟県中越地震の行政の中心におり、この時期どれほど大変な時期を過ごしているだろうか。

三浦・元木、ショートを制する

昨年、スキーOデビューして、いきなり世界選手権出場を獲得した三浦が、このJ-cupでも1位に輝いた。スキーOもだんだん「足のある」スキー出身の選手に上位が奪われつつある。徐々に日本が世界で戦える土俵が育ちつつあるのだ。

女子は元木友子が植野由香を抑えた。元木友子はフットOでも世界選手権代表入りを目指すマルチ選手。もともとは長野県北部の雪国で育ち、スキーとの付き合いは長い。



スタート1分前。超能力で透視を試みる高橋美和。今年一番の成長選手だ。

新雪の森

J-cup2日目はロング種目。昨日よりテレイン範囲が広がつた。4km強のループを私(一般クラス)は1周する。女子選手権では2ループ。男子選手権では3ループ。ジツに12kmである。

この日は朝から雪が降り、ピステにも雪がどんどん積もつてゆく。こうなると実際にスピードもでなくなつてくる。これをどれだけ粘れるかが勝負のカギとなる。

ロング種目男子では幸山(青森県)が優勝した。最近あまりぱっとしない成績の幸山だったが、このシーズンは気合が入っている。このレースの結果で世界選手権への出場を決めた。

女子は植野由香が優勝し、こちら代表権を獲得した。タイムは元木友子のほうが速かつたのだが、コントロール不通過の判定に泣いた。パンチフリーコントロールだったため、スタッド(バックアップラベルの穴)が残つておらず、頼りの電子データも残っていない。

パンチフリーコントロールではE-cardに表示されるフィードバックを確認する必要を痛感した。

(木村佳司)

J-Cup205 成績

Short 男子

1 三浦裕司	0:33:07	札幌旭丘高校
2 幸山敏克	0:33:39	むつ工業教員C
3 宗形竜憲	0:35:29	二本松 OLC
4 山田敦史	0:35:39	青葉会
5 安達利雄	0:39:41	山形県協会
6 山本賀彦	0:39:57	OLP 兵庫

Short 女子

1 元木友子	0:38:29	Team 白樺
2 植野由香	0:42:57	六稜会
3 高橋美和	0:47:43	水篤刈
4 大里真理子	0:51:39	京葉 OLC

Long 男子

1 幸山敏克	1:43:06	むつ工業教員C
2 宗形竜憲	1:47:08	二本松 OLC
3 山田敦史	1:47:55	青葉会
4 三浦裕司	1:57:45	札幌旭丘高校
5 岩淵貴光	2:02:31	松尾 TA 協会
6 山本賀彦	2:07:37	OLP 兵庫

Long 女子

1 植野由香	1:38:32	六稜会
2 高橋美和	1:54:42	水篤刈
3 大里真理子	2:36:44	京葉 OLC

スキーO世界選手権の選考会は新レインのレース結果で選考したい!

困難やアクシデントを克服することができたのは、その熱意だけだった。

(武石雄市)

県の森と市の家

11月初旬のある日、山形市少年自然の家副所長から電話が入る。

「突然この申請書は何ですか、当所はこんな話は聞いていません」と言う。

「3月に16年度施設利用予定書郵送し、会場使用について打ち合わせに参上することを先日電話しております」

と、事実を申し上げても埒が明かなかった。主催者から、各機関に後援申請書の送付に併せて協力機関にも同様の申請書類を提出していた。

急遽、市立自然の家に向かったら、市側の問題は・・・(中略)・・・

その足で閉館準備中の県民の森事務所を訪ねたら、ここでも問題が持ち上がっていた。県側の問題は・・・(中略)・・・

双方の言い分を聞いて半ばあきれたが、殆の問題が(悪いほうの)公務員の発想と回答に終始する。

元公務員の筆者だが、こんなに融通の利かない人たちに堪忍の緒が切れ掛かった、が、ぐっと我慢した。目的はひとつ、「スキーO大会開催」について担当者了承を取ることだ。

とにかく頭を下げた。行き違いの部分があるにせよ相手方組織上の欠点まで飲んでここで開催しなければ日本のスキーOの影響する。既に募集要項も出回り開催時期も場所も変更の余地はないのだ。

2回目に伺ったところ折衝する当方が、相手が提示するあらゆる悪条件をすべからず飲み込んで、撤回ができないことを理解し同意を得ることができた。

会場となる施設も、受付や計センが屋根だけがある吹きさらしの「屋根付広場」と言う最悪の条件だったが、1月に入り寒さに弱い電子機器の使用には、暖房が必要になることを打ち明け最終的にトップ決済でサービスセンターの一角の使用を認められた。

難航したスノーモービル

スキーOレースの必須機材のひとつとしてスノーモービルが挙げられる。どこで開催する場合でも、スノーモービルの台数とオペレーターがトラック設定の鍵を握っている。スノーモービルが必要数確保できれば、あとは地図と気象条件次第だ。

積雪地域の公共施設では大概装備配置されている昨今だが、自然の家にあるモービルの利用は拒否され、山辺町の地区施設にも利用できるモービルがなかった。

モービラーにとって県民の森は格好の遊び場らしく、冬になると入場許可を受けないグループが目が届かない南西のオープンで乗り回している事実が情報として耳に入った。

「玉虫湖畔荘」で宿泊交渉中に何気なく話すと、別グループだが役場の企画課長補佐が纏めているグループの存在が浮かび上がってきた。

モービルは個人の所有物なので機材だけの貸し出しは難航した。スキーOトラックの設定説明から始まって、借上げ金額の交渉で両日のトラック設定を完成する条件の下、5台の借上げに成功した。

結局、我々メンバーの操縦技術を認め、彼らだけで地図どおりのトラック設定が無理とわかり、2台の操縦をさせるを得なくなった。



快調に飛ばす参加者(ME 岩淵)
素晴らしい競技環境を作るウラには運営者の苦勞がある。参加者もベストパフォーマンスでこれに応える

結果的にトラック責任者の高島和弘がオペレーターだったので、当日の豪雪でモービルネットのカットやコントロールの変更に対応でき、レースのスタートが可能となった。

パンチフリーユニット危機一髪

スキーOレースの特徴に速いスピードがある。スキーOレースは電子パンチ利用と常識的になっているが、それでも従来の電子パンチではEMITもSIもコントロールで一旦立ち止まってパンチしなければならない。それを解決したのが、EMIT社が開発したパンチフリーユニットである。

スキーOやMTB-Oのスピード特徴を生かす意味でその要求にかなっていると判断し、我々メンバーの高島が出資して1セットを羽鳥氏が管理している。

さて、パンチフリーユニットは、電池の寿命が1000時間なので、そのアクティベートはレーススタート時刻の直前に手分けして回ることが多い。

今回も、トラックの設定完了、コントロールの設置完了の後、二人がユニットのアクティベートに向かった。

一方少ない役員で、スタート&ゴールの設置を完了したころは予定したスタート時刻が迫っていた。そこに突然アクティベートしているはずの一人がスタートストップと告げてきた。

どうやら、分担して回っている作業が、途中からシュプールが同一のコントロールを回っていることに気がついたからだ。スタート5分前となったが、このまま進行しても不成立の確立が高い。急遽、競技責任者の内山が30分のスタート時刻順延を告げた。

昨年は大事な2大会で不成立があり、今年は何としても不成立は避けなければならないし、WOCの選考会でもありレースの中止も回避したい思いが目まぐるしく脳裏を駆け巡る。

計センでチェックした結果、起動していないユニットが確認されてまもなくコントローラーの元木が起動させてスタートが始まった。

参加した皆様からメールでコース設定に多数の方からお褒めの言葉が寄せられた。セッターの酒井佳子、コントローラーの元木悟、モービルの高島和弘・柴田達真、競技責任者の内山孝博と運営に借り出された渡辺研也、平林静保に心から感謝しています。

(武石雄市)

スキーO大会は、いつも積雪と天気予報に一喜一憂しながら、ハラハラドキドキの運営です。昨年は2レースが不成立になるなど、厳しい運営を強いられているが、その舞台裏を少し紹介します。

(内山孝博)

さくらんぼ大会でお馴染みの山形県県民の森にて、2005年世界選手権最終選考レースとしてスキーO大会が初めて実施された。2年前の3月に残雪合宿を行った時から、沼が点在する北欧チックなこのトレインでスキーO大会を開きたいという関係者一同の念願叶って、地図のリニューアルを期に実現することが出来た。

不安な1月開催

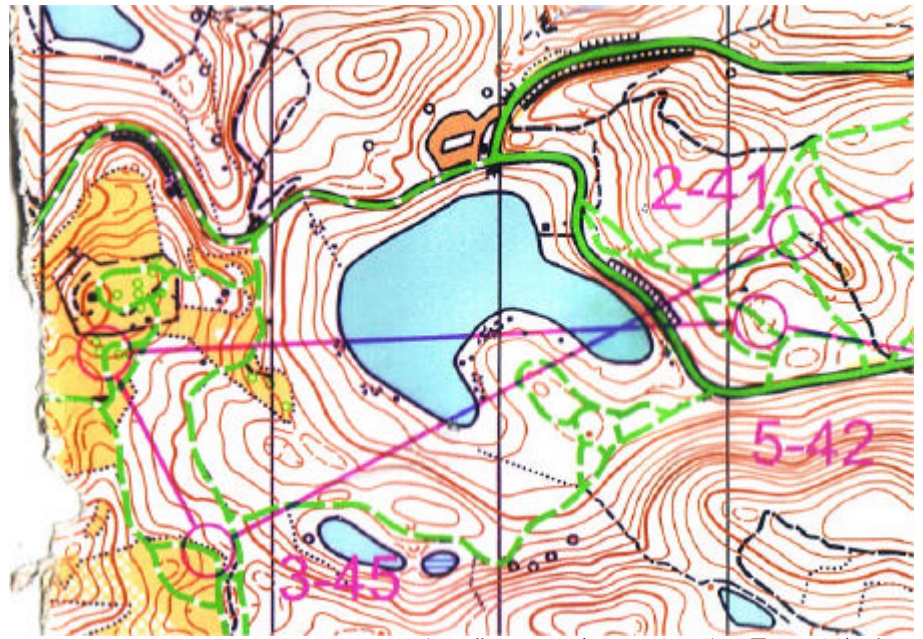
開催時期が、世界選手権の最終選考レースとなったことで、1月中旬までの開催を余儀なくされ、最近の暖冬傾向による雪不足や降雪期のコースコンディションに不安を禁じえなかった。初スキーO大会でもあり、この時期の積雪量や積雪状況によるネットワーク設定可能エリアの予測も難しい中で大会準備スタートとなった。

コース設定は、既に世界選手権の代表切符を手にしていた酒井佳子。昨年11月頃からコース案作成に着手してくれた。

制約だらけの開催条件

12月に入ると、不安が的中してしまい、近年まれに見る雪不足となり、クリスマスまで積雪ゼロ。12月中旬に全く雪が無い中、コース案を元に無理やり下見を実施し、降雪を祈るばかりであった。

施設側との打合せで、更衣所や本部としてサービスセンターが利用出来ない、モービルが大会当日の9:00からしか使用出来ず、我々は乗ることが出来ない等々の制約を受け、それ以降現地に入れたのは、大会1週間前の3日間のみだった。何とか雪は積もったものの、雪不足を想定して練り上げたネットワーク案でさえ大幅に削減せざるを得ず、コース案も大幅修正を強いられるなど、世界選手権選考レースとして相応しいコースが提供できるのか、大会不成立だけは避けなければならないと思いながら、準備をすすめるを得なかった。



沼の北を回るか南を回るか？ 滑り易いのはどっち？
雪で破れた地図がロングディスタンスのレース天候を物語る

リスクを最小限に

レースは、初日がショート、2日目がロング。まず、ショートで使用する予定だった細かいネットワークエリアを翌日のロングの為に残し、直前に大雪が降っても、当日9:00からモービルで踏めるネットワークにする為、遊歩道のみ限定したシンプルなものに変更。ロングも、大幅にネットワークをカットし、遊歩道中心に、ショート用だった細かいネットワークエリアに絞り、最終決定は、ショート実施中にモービルで踏めた範囲でコース設定するというプランで臨むことにした。

ギリギリセーフ

幸い、モービルに我々が乗ることが出来たり、サービスセンターの利用が可能になったりとうれしい誤算もあり、極端な降雪もなく大会初日を迎え、無事ショートを終えることが出来た。この間、ロングのネットワークも想定よりわずかであるが増やすことも出来、2日目を迎えることになる。

ところが、2日目は一転、かなりの降雪と積雪。前日踏んだネットワークはほとんど消え、悪コンディションの中のコントロール設置、ピステによる圧雪、モービルによるネットワーク踏みは、予定時間をかなりオーバーし、スタート開始時刻直前までかかってしまった。更に、ここでコントロール確認のミスによるアクティブート漏れのコントロールが発覚し、スタート開始を30分遅らさざるを得ず、スタートのゴーサインが出せたのは、トップスタート3分前で、ギリギリの開始であっ

た。

スタート後も雪は降り続き、決して良いコンディションではなかったが、何とか無事競技を実施することが出来た。

優秀なスタッフに感謝

こんな状況下で、無事競技を終了することが出来たのは、最悪の事態を想定しながらの準備と、少数ながら経験豊富なスタッフのおかげであった。ほんとお疲れ様でした。特に、制約が多い中でも、酒井さん作のコース設定は絶品でした。ショートもロングも世界選手権選考レースとして相応しいコースを提供できた。武石さんはじめ、スタッフ全員に感謝したい。参加者の皆さんが喜んでくれたら、我々も幸せです。

大会終了時は大雪。航空機の欠航で帰れなかった人、遅れたフェリーを諦めた人、大渋滞で何時間も車中で過ごした人、新幹線に朝まで閉じ込められた人など、参加者の皆さんが最後の最後に一番苦労されたようです。ほんとお疲れ様でした。

(内山孝博)